

釜石地方原木しいたけ生産技術研修の実施について

1 はじめに

釜石地方では、昨年度に引き続き、原木乾しいたけの選別等に係る研修を行いましたので紹介します。

釜石地方の原木乾しいたけは、全国の品評会で農林水産大臣賞を数多く受賞するなど、県内でも有数の品質を誇っていました。

震災以前は、釜石市で27名、大槌町で43名の生産者がいましたが、放射性物質の影響により出荷制限が指示され、現在、一部解除は、釜石市で3名、大槌町で16名にとどまっています。

出荷制限が解除された生産者の中でも、近年の市場価格の低迷や高齢化によって、植菌量が大幅に減少しています。この度、改めて生産者に意欲をもって生産を続けていただくため、岩手県林業技術センターの佐々木上席林業普及指導員を講師に、生産技術研修会を開催したところ、新規参加者を含めた9名が研修に参加しました。

2 研修内容

(1) 令和4年春子の作柄について

4月末に30度を超える高温が続いたことから、釜石地域は、昨年に引き続き「不作」傾向となりました。全県に目を向けると平年作となった地域もあるなど、県内でもバラツキの見られた作柄であったことの説明がありました。

参加者からは、4月の高温で一気に成長したため、緑の割れたアレ葉系が多くなったとの声がありました。



また、現在も藤子の発生が見られるものの、燃油価格の高騰によって、乾燥機を動かす判断が難しいとの意見もありました。

(2) 原木乾しいたけの市場動向について

市場によっては、令和4年に入って4,000円台を維持しており、市場価格は底を打ったのではと期待されています。

最近では、良品と、そうでないものの価格差が少なく、アレ葉系でも一定の単価になるものの、異物や虫の混入には十分気を配った商品づくりをするように注意がありました。

(3) 原木しいたけの選別について(実習)

最後に、茶花どんこを実際を使って、品評会出品を想定した選別を参加者で行いました。

選別では、粒の揃い、傘の色味や亀裂に入った白い線の有無、縁の巻き込み、石突の長さ等に注意しながら、目標とする量目に合わせた一定の品揃えを行いました。



3 終わりに

生産者の収益アップのためには、生産量の増大に加え、単価の向上が見込めるシビアな選別が必要です。

今回は、品評会に何度も入賞される高い技術力を持った生産者の御自宅で行いました。

新規参加したばかりの参加者は、品質の高い乾しいたけを実際に目にし、生産技術への高いこだわりを聞くことで、大きな刺激を受けた研修となりました。